

# 令和5年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

### (1) 教育目標

真理と平和を愛し、社会に貢献しうる工業人の育成を目標とし、有能な技術者としての資質を高め、工業の発展を図る能力と実践的態度を育てる。

校訓（生活標語） **誠 実 友 愛 自 律**

### (2) 教育方針

- ・誠実・友愛・自律を校訓とし、健全な心と強健な身体の発達を促す。
- ・各学科の専門分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、技術革新に対応できる能力を養う。
- ・創造性を養い、社会の進展に対応できる自主的な行動力を育てる。

## 2 学校の特徴

ものづくりを中心とした日常の学習活動や、部活動・ボランティア活動などを通じて、健全な心身や人格を育み、将来は地域のものづくり産業を支え、社会に貢献できる実践的な能力やたくましさ身につけた人材の育成を目指している。

学科構成は各学年機械科2クラス、電気科1クラス、電子科1クラスの計4クラスである。

卒業後の進路は、就職が約7～8割でそのほとんどが県内である。進学は約2～3割である。

## 3 学校の現状と課題

### (1) 課題 「時代の変化に対応した工業教育の推進」

### (2) 課題設定の趣旨

個々の生徒の可能性を引き出し、時代の変化に主体的に対応できる柔軟性と個性の伸長を図りたい。そのため、学習活動と特別活動の両面において指導の充実を図り、生徒の自ら学ぶ意欲を高め、主体的に問題解決のため行動する実践力を育成する。また、日常生活における道徳性を身につけさせるとともに、明るく活力にあふれた学校づくりに努める。

### (3) 現状と問題点

生徒の多くは、将来の目標を掲げ有意義な高校生活を送っているが、目的意識が低く学習や特別活動に意欲をもてない生徒や家庭における基本的な生活習慣が身につけていない生徒もおり、生活指導上留意が必要である。これらのことについて、学校全体の問題として捉え、多面的に対処することが必要である。

#### 4 学校教育計画

項 目		目 標 と 計 画	
1	学習活動 <b>重点1</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力を身につけさせるとともに、体力の向上を図り、社会人としての豊かな教養を身につけさせる。</li> <li>○課題解決能力や、自発的・創造的な学習態度を育てる。</li> <li>○資格や検定試験の取り組みにより学習意欲を高めるとともに、知識や技術を身につけることにより進路意識を高める。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門分野に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させる。</li> <li>○工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、主体的、合理的、かつ創造的に解決する能力と態度を育てる。</li> <li>○工業の意義や役割を理解し、地域社会の発展に貢献できる能力を育てる。</li> </ul>
2	学校生活 <b>重点2</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別学習や習熟度別学習を実施し、個々の生徒の能力に対応した効果的な指導に努める。</li> <li>○実験・実習・課題研究など体験的学習を多く取り入れる。</li> <li>○各教科に応じた資格・技能検定の受検により学習意欲を高めるとともに、合格までの学習方法を体得させ、家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>○主体的で対話的な授業を展開するために、ICT機器を活用する。</li> <li>○蓄積されている実習教材を活用し、実践的・体験的な学習活動を通して基礎技術を総合的に習得させる。</li> <li>○新しい技術を教材化し、現代社会における工業の意義や役割を理解させる。</li> <li>○地域企業との連携を図り、専門技術者から実践的な知識・技能を習得させる。</li> <li>○地域企業での就業体験により、工業の役割を理解させ、勤労観を育てる。</li> <li>○環境及びエネルギーに配慮した技術を各科目で扱い、その意義や必要性について考えさせる。</li> <li>○コンテスト、資格検定、ボランティア活動を体験させ、主体的、対話的かつ協働的に課題に取り組む態度を育てる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣やモラルの確立を目指す。</li> <li>○コミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>○自身や他者を大切にする生徒の育成を目指す。</li> <li>○交通ルールを遵守させる。</li> <li>○問題や困難を支援し、目的意識をもって意欲的に高校生活を送る姿勢を育む。</li> </ul>
3	進路支援 <b>重点3</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遅刻指導、あいさつ運動の推進に努める。</li> <li>○声かけなど対話型の指導で生徒の内面より指導する。</li> <li>○グループワークを取り入れたHR活動の充実を図る。</li> <li>○自転車カギかけチェックを実施するとともに、私物の管理、教室の施錠の徹底を図る。</li> <li>○通学路での交通安全指導や校内での啓発活動を通じての交通モラルの向上を目指す。</li> <li>○Q-Uアンケートや生活アンケートなどを活用し、生徒との面談を充実させる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な機会を通して、就職や進学への意識の高揚を図る。</li> <li>○生徒一人ひとりが自分の能力・適性に合った進路選択ができるように指導する。</li> <li>○2年生全員対象のインターンシップを実施し、体験発表会を行う。</li> <li>○先輩の話や先輩の話を聞く会、進路講話等の行事を通して勤労意識の向上を図る。</li> <li>○就職希望者には、応募前職場見学により進路を決定させ、試験に向けて面接指導を行う。</li> <li>○進学希望者には説明会やオープンキャンパスの参加を推奨する。</li> </ul>
4	特別活動 <b>重点4</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別活動を通して、目標達成に向かって自分の責任を果たすことや協力しあうことの意義を理解させる。また、生徒の主体的な活動を支援し、活動を通して生徒の個性を伸長するとともにコミュニケーション能力を養い、協働で物事を成し遂げる力を育む。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別活動において生徒の興味関心に応じた企画運営や積極的な参加を支援する。</li> <li>○部活動の目標・目的を明確にし、活動の充実を図るとともに部員相互の理解を深める。</li> </ul>
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域社会との積極的な交流を通して、工業人としての自覚と誇りを持たせる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種の地域イベントに参加し、おもちゃの病院などの地域貢献活動に積極的に取り組む。</li> <li>○インターアクトクラブの活動を生徒全体にも広げ、ボランティア活動を推進する。</li> <li>○中学生の体験入学を充実させる。</li> </ul>

## 5 学校アクションプラン

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒の実態に対応した基礎学力の定着と自主的に学習に取り組む態度の育成
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力（計算力、文章読解力など）が不足している生徒が増えている。</li> <li>家庭学習の状況は、毎日学習する生徒が全校生徒の約65.0%（2月調査）と少ない。</li> <li>工業高校で取得可能な資格検定について、生徒が自ら積極的に取り組むよう指導しているが、多様な生徒への対応に苦慮している。</li> </ul>
達成目標	○毎日学習をする生徒が70%以上 ○各学科で主たる資格検定を設定し重点的に指導することで「やればできる」、「もっとやろう」という意識を高め、生徒一人あたりの資格検定受験回数の増加。
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習で復習ドリルや問題集を行い、基礎学力の確実な定着を図る。また、朝学習と連携した夏季・冬季休業中の課題やワークに取り組みせ、確認テストや宿題テスト等で学習意欲の喚起に向けた指導の工夫・充実を図る。</li> <li>将来の進路や得意分野の伸長のために、生徒自身で資格取得への目標を立て、学習の計画を立てて取り組むことで、授業以外の学習時間を有効に活用できるように工夫する。                〈主たる資格検定〉                機械科・・・1年次の計算技術検定、情報技術検定、危険物取扱者三種                電気科・・・第2種電気工事士(全員取得)、第1種電気工事士、2級電気工事施工管理技術検定                電子科・・・情報技術検定、パソコン利用技術検定、工事担任者第二級デジタル通信</li> <li>I C T機器を積極的に利活用し、授業における指導内容・方法の研究をすすめ、生徒の学力向上や生徒の主体的な学びを育む。タブレット端末を活用した授業展開や朝学習・資格検定の学習に向けた効果的な利用法を推進する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	問題や困難を抱える生徒の把握と支援体制の確立
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期欠席者が増加している。また多様な悩みを抱えて授業や学校生活に集中できないなど問題を抱える生徒が散見される。</li> <li>基本的な生活習慣の乱れが学習活動に悪影響を及ぼしている生徒、体調不良を訴えて欠席する生徒が少なからずいる。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>長欠者に対する適切で丁寧な指導・支援をする。</li> <li>昨年度の欠席数・遅刻数・早退数のそれぞれ10%減を目標とする。</li> </ul>
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンテナを高く張り、生徒の様子・変化を見逃さずに生徒理解に努める。</li> <li>各アンケートを活用し、生徒との面談を充実させ、問題を抱える生徒にはともに原因を探り解決策を見いだす。</li> <li>こまめに情報を共有する機会を設け、必要に応じてケース会議を行い、組織として対応する体制を強化する。</li> <li>保護者との報告・連絡・相談を密にし、家庭との協力体制を充実させる。</li> <li>S CやS S W、教育センターなど外部機関の専門家を積極的に活用する。</li> <li>各科や学年、保健厚生部等と連携し、学業を中心とした生活習慣の確立・維持を促す。</li> <li>学年で実施している朝学習をもとに、毎朝の遅刻指導を徹底し、声かけをする。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援
重点課題	学年、科と連携した進路指導の充実および自己理解を通じた進路支援
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料やエネルギー価格の高騰や海外需要の落ち込み、新型コロナウイルス感染症の影響などのマイナス要因はあるが、若年労働者の慢性的な人手不足により企業の求人は増加している。</li> <li>・基礎学力やコミュニケーション能力が不足な生徒がいる。</li> </ul>
達成目標	年度内進路決定 100%
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との積極的な情報交換により、企業のニーズを捉え生徒・学年に伝え生徒の就職活動に活かす。</li> <li>・進路に悩む生徒との面談を実施し、進路指導の立場からアドバイスする。</li> <li>・基礎学力やコミュニケーション能力の不足が心配される生徒を早期に把握し、学年、科との連携の下に本人の希望や適性に応じた進路先の確保・開拓に努める。就労困難な生徒の場合はハローワーク等の専門機関と連携し、適切な進路決定を目指す。</li> <li>・職業適性検査や自己分析の実施と就職スタートブック（労働局）の活用。</li> <li>・面接指導の充実により、面接試験だけでなく就労意識の向上を目指す。</li> <li>・HR時に、自己分析の時間を設ける。適性を考えるVTR教材の活用を図る。</li> <li>・進路の手引きを全学年に配布し、生徒と保護者に進路決定の流れを知ってもらう。</li> <li>・校外学習や工場見学、インターンシップ、応募前見学、オープンキャンパスを通じて企業や学校を知り、進路決定するように指導する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動
重点課題	部活動の充実
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則全員部活動加入制を取っており、運動部に58%、文化部に39%の生徒が所属しているが、3%の生徒が部活動に無所属である。</li> <li>・昨年度の部活動に関するアンケートにおいて、各自の取り組みについての満足度自己評価で「満足」と「ほぼ満足」と回答した生徒は85%であった。</li> <li>・昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなり、部活動をある程度実施できた。</li> </ul>
達成目標	部活動への各自の取り組みについての満足度自己評価において「満足」または「ほぼ満足」が90%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激励会において、全校生徒で選手を応援することで母校の代表としての活躍を期待する。</li> <li>・生徒の活躍を校内で披露し、他の生徒のよき手本を示し、その波及効果を期待する。</li> <li>・生徒会活動、学校行事等でリーダー活動を経験させ、各部活動の主体的活動につなげる。</li> <li>・全国大会出場の懸垂幕掲示や学校ホームページへの掲載を通して学校外に広報し、部活動への関心と期待を高め、部活動の一層の充実を図る。</li> <li>・部活動指導員、スポーツエキスパート等により部活動指導体制の強化を図る。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)